

団体名	鴨川市国際交流協会						
事業名	災害時外国人支援事業						
実施期間	令和5年12月17日(日)、令和6年1月14日(日)						
場 所	学校法人令徳学園 鴨川令徳高校、学校法人鉄蕉館 亀田医療技術専門学校						
参加者数	外国人留学生	日本人学生	地域住民 (留学生以外の外国人)	地域住民 (外国人除く。地域のスタッフ含む)	申請団体スタッフ	その他	合計
	31	6	7	25	5	10	84名

<実施内容>

<p>1 外国人とのコミュニケーション講座</p> <p>(1) 講義「外国人とのコミュニケーションとやさしい日本語の活用」 外国人とコミュニケーションを取るときのポイントの説明があった。例えば、情報整理し、文章を短くする、漢字には振り仮名を振る、イラスト・図などを使う、3つ以上は箇条書きにすることなどを学んだ。</p> <p>(2) ワークショップ「やさしい日本語を使ってみよう」 市のお知らせなどをやさしい日本語に翻訳し、ポスターを作成した。イラストやピクトグラムなどを入れるなど工夫して、留学生を含む外国人に提示</p> <p>(3) ロールプレイ「やさしい日本語で話してみよう」 留学生などとやさしい日本語を使った会話に挑戦</p> <p>2 災害時外国人サポーター養成講座</p> <p>(1) 講義「災害時外国人支援活動のポイント」 最大震度7を観測した能登半島地震で避難所に滞在するベトナム人たちが、職場の日本人と避難所生活をする様子を見て、災害時の外国人の困りごとを理解 日本国籍であっても海外生活が長い人や帰化した人など「外国にルーツのある人」も言語や文化の違いを持つことから支援の対象になることや言語だけでなく文化の違いから宗教上の理由で非常食が食べられないものがあること、災害時多言語支援センターは、日本人との間にある言語や文化の違いを支援し、双方に安心を与える役割を担っていることなどを学んだ。</p> <p>(2) 災害時多言語支援センターの設置と巡回準備 災害時に市役所、電話・電力会社、公共交通会社等が作成した情報を簡単で分かりやすい「やさしい日本語」や多言語に翻訳 「災害時多言語表示シート」や「多言語指さしボード」が避難所に配置済みであるため、掲示してもらうことで外国語が話せなくてもコミュニケーションが取れることを学んだ。</p> <p>(3) 避難所巡回訓練 避難所に見立て、被災者役外国人のニーズを聞き出し、情報を届ける訓練を実施</p> <p>3 外国人のための防災教室</p> <p>(1) 講義「地震が起きた時の対処方法」 能登半島地震の映像を見ながら災害時に外国人住民が困ることを考え、避難所と避難場所の説明を行った。</p> <p>(2) ワークショップ「避難所利用者登録票」を書いてみよう 避難者カードに情報を記入。日本語が難しい人は、翻訳したものに記入した。</p> <p>(3) 非常食体験 鴨川市消防団女性消防隊が非常食の作り方を教え、日本人と交流しながら食事した。</p> <p>(4) 非常持出袋の用意 鴨川市消防団女性消防隊が非常持出袋の中身を紹介し、循環備蓄などを学んだ。</p> <p>(5) 避難所体験「被災者になりきろう」 日本人支援者がどのように避難所に訪ねてくるかを体験</p> <p>(6) 救急救命講習・AEDの使い方 鴨川消防署員を講師に胸骨圧迫とAEDの使い方を学んだ。</p>
--

<記録写真>



やさしい日本語で作成したポスターを評価



避難所巡回訓練で外国人被災者に遠隔通訳を利用して聞き取り



鴨川消防署員によるAEDの訓練安全確認中

<参加者からのコメント>

馬浚皓さん(中国)/MA JUNHAO

来日してから、日本人の相談相手は先生だけ。もっと日本の生活のことを知って日本人の友達を増やしたい。講座前は、日本人は怖い人ばかりかと思っていましたが、今日の交流を通じて優しい人が多いと思いました。

グエン ティ タオ アインさん(ベトナム)/NGUYEN THI THAO ANH

授業を通じて、日本の災害の種類や災害が起きた時の備えについて学びました。日本の災害時に食べる非常食はとても便利だと思います。わかめご飯は2通りの使い方ができ、おかゆにも、ご飯でもできますし、初めて食べた非常食でもあり、味もおいしかったです。また、避難する方法や自分の困りごとについて、日本人と話し合う方法も学びました。

英語名称(英語版作成用)

団体名	Kamogawa International Relations Association
事業名	Support from Foreigners in Disasters